

# 広葉樹材の市場調査について

## 一 熊本県森林組合連合会球磨事業所における市場価格の分析一

熊本県林業研究指導所 宮島 淳二

### 1. はじめに

戦後の拡大造林推進政策により、熊本県では40万ha余りある民有林の約60%が現在までに人工林化された。しかもその大半がスギ、ヒノキの針葉樹で占められており、これは木材資源の量的側面からみれば非常に喜ばしいことである。しかし木材全体の需要を考えた場合あまりにも偏った資源構成になっている。特に今後の木材需要の様態を考えると旧来のスギ、ヒノキを中心とした構造材としての用途は、代替材の出現によりかなり厳しくなることが予想される。そこで内装材、家具等にその用途も多彩な広葉樹を見直し、資源の構成の多様化を図る必要がある。この観点から熊本県において今後更新が期待される樹種を検索する一手法として、現在県下の木材市場において取り引きされている広葉樹材について調査したので報告する。

### 2. 調査した市場の概要

今回調査した木材市場は、熊本県球磨郡深田村の熊本県森林組合連合会球磨事業所で、昭和59年度広域林業構造改善事業により開設された。材は主に熊本県南部および隣接する宮崎、鹿児島両県から出荷されており、特に広葉樹材の出荷量は県下でも多い方である。

市は、昭和59年12月1日開市以来毎月3回定例市が開かれており、1回の市で1,000m<sup>3</sup>程度の材が取引されている。本事業所では主に一般材が取り引きされ、スギ、ヒノキとそれ以外の材は区別して取りあつかわれ、それ以外の樹種は、今回調査した広葉樹の外に、マツ、モミ、ツガ等の針葉樹が取り引きされていた。

### 3. 調査方法

今回調査した期間は、昭和61年1月から12月までで、この間合計35回の市が開かれこのうち広葉樹材が取り引きされたのは33回であった。この各市毎の共販記録から1件毎に樹種、材長、末口径、m<sup>3</sup>当り単価、材積、本数、欠点の有無を調査した。その結果調査対象期間中に出荷された広葉樹材は表-1に示すとおりで、46樹種、7,688件、材積3,931m<sup>3</sup>、21,172本であつた。

これは材積で全取りあつかひ量の9%を占めていた。

表-1 樹種別出荷量

樹種	a件数	b材積	c本数	c/a	樹種	a件数	b材積	c本数	c/a
カシ類	1,202	565.0	3,866	3.2	クスノキ	33	22.0	106	3.2
ク	1,108	474.0	3,034	2.7	カ	25	6.9	42	1.7
ミズメ	791	318.8	2,009	2.5	ニ	16	6.7	32	2.0
サクラ	779	300.0	1,979	2.5	ナ	16	5.5	23	1.4
ケヤキ	678	210.0	1,212	1.8	ヤマギリ	15	8.4	32	2.1
シデ類	373	190.2	1,008	2.7	タヌキ	15	5.5	24	1.6
ミズキ	295	136.6	829	2.8	イシイガシ	13	4.2	13	1.0
シイ類	269	243.0	1,492	5.5	キ	13	3.5	38	2.9
カエデ	249	87.0	375	1.5	キハダ	12	5.1	29	2.4
ナラ類	210	117.8	794	3.8	ニガキ	6	1.5	8	1.3
モミジ	180	62.9	276	1.5	ヘラノキ	3	2.2	6	2.0
タブノキ	173	115.8	586	3.4	ハ	3	0.3	4	1.3
ホノノキ	105	241.8	151	1.4	アサダ	2	0.8	2	1.0
センネ	101	287.3	143	1.4	エンジュ	2	0.4	3	1.5
ネムノキ	99	28.5	156	1.6	ツバキ	2	0.3	2	1.0
エノキ	71	31.9	87	1.2	ヘボノキ	2	0.2	2	1.0
クルミ	65	49.7	186	2.9	ウ	1	0.6	7	7.0
ブ	62	57.8	103	1.7	アオハ	1	0.2	1	1.0
トリコ	62	11.2	87	1.4	ヤマモ	1	0.2	1	1.0
ク	49	5.1	58	1.2	ツ	1	0.2	2	2.0
センダン	39	12.1	51	1.3	イ	1	0.1	1	1.0
カツラ	35	24.8	60	1.7	広葉樹入	476	273.5	2,203	4.6
シオジ	34	11.7	49	1.4	合	7,688	3,931.3	21,172	2.8

### 4. 調査結果

1件毎に調査した資料を樹種毎にとりまとめ、以下の処理を行い樹種毎の価格特性を検討した。

#### (1) 樹種別単価の比較

各樹種毎に材長を2m未満、2~4m、4~6m、6m以上、末口径を20cm未満、20~30cm、30~40cm、40cm以上に区分し、各区分毎の高値、安値、平均単価を整理し、さらに平均単価の高い順に樹種を並べかえたのが表-2である。

なお、処理対象樹種は出荷件数でほぼ100件を超えるものにしぼり、かつ各区分毎に5件以上ある場合のみ記載し、10件に満たない場合は平均単価に「\*」を付記した。また材長2m未満、6m以上のものについては対象が少なかったのが割愛した。

平均単価の算出にあたっては、不落のもの、欠点のあるものは除外し次式によって算出した。

$$\text{平均単価} = \sum \text{m}^3 \text{当り単価} / \text{取り引き件数}$$

表-2で平均単価の順位をみると、材長2~4m、4

Junji MIYAJIMA (For. Res. and Instruc. Stn. of Kumamoto Pref., Kumamoto 860)  
Price analysis of hard-wood round timber at Kumaround timber auction market, Kumamoto Pref.

表一 広葉樹材の樹種別単価比較表

材長 2~4 m		単位: ¥/m <sup>3</sup>										
順位	樹種	末口径 0~20 cm		末口径 20~30 cm		末口径 30~40 cm		末口径 40 cm~				
		平均単価	高値	安値	平均単価	高値	安値	平均単価	高値	安値		
1	クリ	22,747	40,000	12,500	ケヤキ	35,628	106,000	15,000	ケヤキ	93,606	198,000	23,000
2	ケヤキ	21,097	42,500	9,000	クリ	27,328	45,800	14,500	ミズメ	*52,400	68,500	43,000
3	ミズメ	16,442	33,900	11,500	ミズメ	21,159	39,600	11,000	クリ	30,261	56,600	14,600
4	カシ類	14,863	28,000	5,000	カシ類	21,042	47,930	9,000	カシ類	27,896	44,560	13,500
5	サクラ	14,308	24,900	10,000	ナラ類	19,019	30,000	10,000	サクラ	27,777	48,800	13,100
6	ミズキ	13,991	20,600	12,000	サクラ	16,873	30,000	10,000	ナラ類	*24,788	49,200	14,000
7	タブノキ	13,342	14,000	11,500	ネムノキ	16,619	36,960	9,500	ネムノキ	21,994	36,000	15,000
8	ホノノキ	*13,200	16,000	9,000	シイ類	15,575	24,800	11,000	モミジ	17,859	33,880	13,000
9	センノキ	13,200	15,000	12,000	ホノノキ	15,353	24,500	10,000	カエデ	*16,944	23,800	13,000
10	ナラ類	13,081	16,000	9,000	モミジ	15,044	29,180	10,000	シデ類	*15,514	25,600	12,000
11	シイ類	12,957	16,500	10,000	ミズキ	14,961	24,800	11,000	センノキ	*14,800	16,000	12,000
12	カエデ	12,833	14,000	12,000	カエデ	14,757	23,000	9,500	タブノキ	*12,040	12,600	11,100
13	シデ類	12,740	17,000	10,000	シデ類	14,392	22,600	8,000				
14	モミジ	*12,313	15,000	10,000	タブノキ	13,891	16,810	9,000				
15	ネムノキ	*12,100	14,500	10,000	センノキ	12,386	15,000	10,000				

  

材長 4~6 m		単位: ¥/m <sup>3</sup>										
順位	樹種	末口径 0~20 cm		末口径 20~30 cm		末口径 30~40 cm		末口径 40 cm~				
		平均単価	高値	安値	平均単価	高値	安値	平均単価	高値	安値		
1	クリ	28,141	58,000	10,000	ケヤキ	42,140	161,500	16,000	ケヤキ	82,459	162,900	28,000
2	ケヤキ	22,522	51,000	13,000	クリ	38,669	56,900	15,600	ミズメ	46,249	80,000	18,000
3	ミズメ	18,192	35,900	11,500	ミズメ	27,486	75,400	12,000	クリ	43,494	71,000	16,400
4	カシ類	17,149	36,500	8,500	カシ類	24,694	49,890	10,000	カシ類	30,684	50,000	13,600
5	サクラ	15,332	25,200	10,000	サクラ	17,873	36,900	10,000	サクラ	26,852	42,100	13,860
6	ミズキ	14,609	21,600	10,000	ナラ類	17,872	29,300	12,000	ナラ類	25,882	43,300	12,000
7	シイ類	14,409	17,600	10,000	シイ類	17,302	34,100	12,300	シイ類	22,178	27,800	14,000
8	ナラ類	14,228	26,800	9,000	ネムノキ	16,465	26,800	9,000	モミジ	20,939	41,800	12,000
9	ネムノキ	*14,225	16,000	13,000	ホノノキ	16,379	25,000	12,500	カエデ	20,717	36,900	13,500
10	シデ類	13,734	29,370	9,000	モミジ	16,169	28,000	12,100	シデ類	17,988	27,800	12,110
11	モミジ	13,669	17,800	10,000	ミズキ	16,080	26,000	12,500	ミズキ	16,769	22,800	14,000
12	カエデ	13,666	17,800	10,000	カエデ	15,170	28,300	12,000	センノキ	*16,587	23,110	14,000
13	ホノノキ	13,512	17,000	9,000	シデ類	14,896	23,600	11,000	タブノキ	15,886	24,900	12,900
14	タブノキ	13,324	15,000	12,000	センノキ	14,877	23,000	10,000				
15	センノキ	13,263	20,000	11,000	タブノキ	14,704	18,990	9,500				

~6mいずれの場合でもクリ、カシ類が上位に位置しているが、末口径が大きくなるにつけてケヤキ、ミズメ、サクラ、カエデの順位が上がることがわかる。また高価な樹種では高値と安値にかなりの開きがあることもうかがえる。

(2) 樹種別の末口径による単価の変動

(1)の結果をより理解しやすくするため各樹種毎の20cm未満の平均単価を100としたときの各末口径区分での平均単価を指数化したのが表一3である。この表から、末口径により単価がさほど左右されない樹種群(クリ、カシ類等)と末口径により単価が左右される樹種群(ケヤキ、ミズメ等)とがあることが判明した。

表一3 樹種別の末口径による単価の変動

樹種	材長 2~4 m				材長 4~6 m			
	0~20cm	20~30cm	30~40cm	40cm~	0~20cm	20~30cm	30~40cm	40cm~
クリ	100	120	133	—	100	137	155	*137
ケヤキ	100	169	238	444	100	187	366	*655
ミズメ	100	129	196	*319	100	151	254	368
カシ類	100	142	188	195	100	144	179	189
サクラ	100	118	194	—	100	117	175	*227
ミズキ	100	107	—	—	100	110	115	—
タブノキ	100	104	90	—	100	110	119	153
ホノノキ	100	116	—	—	100	121	—	—
ナラ類	100	145	*189	—	100	132	182	—
シイ類	100	120	—	—	100	120	154	—
カエデ	100	115	*132	*331	100	111	152	*247
シデ類	100	113	*122	*162	100	108	131	—
モミジ	*100	122	145	—	100	118	153	—
ネムノキ	*100	137	182	*306	100	122	145	—
センノキ	*100	94	*112	—	100	112	*125	—

5. 考察

広葉樹材の市場における取引価格の末口径による変動は、樹種別に異なり、末口径の大小に左右される樹種群と、左右されない樹種群とに大別された。このことは、今後熊本県で広葉樹林施業を推進して行く上で、一つの指針になりそうである。またこの樹種別の価格特性は材の用途に起因すると思われるので樹種毎の用途についてさらに調査する必要がある。調査結果でも述べたとおり高値と安値にはかなり開きがあり材長、径級以外の価格決定因子がありそうなので詳細な調査を進めるとともに季節的な市況の変動についても調査、検討する必要がある。表一1で1件あたりの平均本数を記載したが、1件つまり1径の本数は極めて少なく単木で取引されている例もかなりあった。これは安永ら<sup>1)</sup>の都城原本市場での調査報告のとおりであり、広葉樹材の持つ個性の強さを反映している。

引用文献

- (1) 安永朝海・森田栄一：日林九支研論，38，7~8，1985